

令和6年度入学 看護学部 一般選抜・前期 試験問題の出典

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	出口 治明	還暦からの底力ー 歴史・人・旅に学ぶ生き方	2020年 P150-156より 一部改変	講談社

令和6年度 一般選抜・前期

## 看護学部

### 小論文 (60分)

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(100点)

教育とは何のためにあるのでしょうか。改めて考えてみると、そこには大きく2つの目的があるのだと思います。1つは社会に出て必要となる基礎的な知識即ち、生きるための武器を身に付けること。もう1つは考える力を身に付けることです。

スクール(school)の語源はギリシャ語の<sup>スコレ</sup>skholeにあるといわれ、その意味は余暇です。要するに勉強はヒマなときにするものだという事です。

昔は「人間の生活＝人生＝仕事＝教育」でした。

たとえば焼き物師になりたい人は、焼き物のお師匠さんのところに弟子入りしました。<sup>でっちぼうこう</sup>丁稚奉公をしながら焼き物の技術と方法を身に付けていくのですが、そこでは毎日の生活のなかに仕事や教育が区分されずに存在し、毎日の生活が人生そのものでした。

このスタイルだと教育は師匠と弟子のマンツーマンか、師匠と弟子数人の、せいぜいマンツーマンくらいが限界です。また、貴族などの特権階級は家庭教師からマンツーマンで教わっていました。特権階級は人数が少ないので、こういうシステムが可能でした。

[ア]、産業革命が起こると、大量の均質な労働力が必要になりました。工場で働く労働者を大量につくらなければならないという要請に応えるには、マンツーマンではなく人数をまとめて教えたほうが効率的です。そこで1カ所にみんなを集めて、読み書きそろばんなど工場労働に必要な基礎知識を教えるために、現在のスクールの原型ができてきました。

このように現代に至る教育の成り立ちを考えると、<sup>(1)</sup>きょうぎの教育の目的は、人々に対し社会に出るための武器を与えるものといえます。また、荒っぽくまとめると、産業革命によって生活と人生、仕事と教育が分けられました。

一方、人間と動物の違いは何かといえば、考えることです。パスカルが『パンセ』で人間は考える<sup>あし</sup>葦であると述べたように、両者の違いは考えられるかどうかにか尽きます。

(中略)

人が「考える<sup>あし</sup>葦」になるために、自分の頭で考え自分の言葉で自分の意見をいえるような人間を育てることが、教育の<sup>(2)</sup>こんげん的な目的ということです。

そして「考える<sup>あし</sup>葦」としての人間の成長には完成も終わりもありませんから、この目的のためには子供の時期だけに限らず、大人になっても一生勉強し続ける必要があるのです。

人生において教養はなぜ重要か、という問いにも答えておきましょう。

一番簡単な答えは、教養がある人は、教養がない人に比べて豊かで楽しい人生をおくれるからです。僕は「おいしい人生」という言い方をしていますが、講演でご飯のアナロジー<sup>註</sup>で「おいしいご飯とまずいご飯、どちらを食べたいですか」と質問すると、みなさん「おいしいご飯」と答えます。当たり前ですよ。

次に「おいしいご飯を因数分解するとどうなりますか」と重ねて質問すると、「いろいろな材料を集

めること」と「上手に料理すること」という答えが返ってきます。正しい解答だと思います。

では「おいしい人生」を因数分解するとどうなるか。答えはおいしいご飯と一緒に、いろいろな材料を集めることと、それらを上手に料理することです。

おいしい人生における食材とは「知識」であり、上手に料理する力は「考える力」です。まず、材料である知識がなかったら何もできません。ただし、材料を集めてもそれを人生において具体的に活用する考える力がなかったら、おいしい人生を楽しむことはできません。

以上をまとめれば「教養＝知識×考える力」という式になり、これはおいしい人生をおくるには必須のものです。

この式の右辺は時代によってウェイトが変化します。第2次世界大戦に敗北した後、ふっこうのため<sup>(3)</sup>「アメリカに追いつき追い越せ」でやっていた戦後の日本は、知識のウェイトが大きい時代でした。自動車や家電、電子製品といった製造業を中心に、先行しているアメリカにキャッチアップするには、それまでにない新しい発想やコンセプトを生み出す思考力より、既存の知識を吸収し、活用するほうが重要だったからです。

(中 略)

しかも社会の変化のスピードが速いので、知識はどんどん陳腐化していきます。そうすると今後は考える力のウェイトが圧倒的に高くなっていくのは確実でしょう。時代が変化するスピードが速くなればなるほど社会常識を疑い、原点からものごとを考える力、即ち探究力が重要になってきます。<sup>(A)</sup>

この考える力を養うことを昔はリベラルアーツとして教えていたので、最近になってそのことを思い出して「教養が大事」という人が増えたのだと思います。

では考える力を養うには、どうしたらいいでしょうか。またご飯のアナロジー<sup>註</sup>に戻って考えてみると、人が料理の能力をどうやって身に付けるかといえば、最初はレシピからです。

僕が大学に入学してこきょう<sup>(4)</sup>を離れて下宿暮らしをはじめるとき、母に好物のいくつかの作り方を教えてもらい、それを自分で紙に書いて下宿先に持っていきました。母のレシピです。

最初は母のレシピの通りにつくるところからはじまって、「ちょっと塩辛いから塩を半分にしてもよう」などと自分で調整して、自分にとってちょうどいい加減を見つけていきました。最初は人の真似から入り、試行錯誤を繰り返しながら自分のものにしていくわけです。

考える力も料理と同じで、最初は考える力の高い人の真似から入り、試行錯誤を繰り返しながら自分のものにしていく。具体的には考える力の高い人が書いた本を読むことです。それは歴史的に長く読み継がれてきた古典に他なりません。

(中 略)

本を読む意味は単なる知識の獲得にとどまらず、先人の思考のパターンや発想の型を学ぶことにあります。料理のレシピとまったく一緒です。先人の思考のプロセスの追体験からはじめるのです。

仕事で相手を理解しようとするときも、いくつかの問題に対してその人が出した結論だけを見るのではなく、「あの人はこのように考えるからこんな結論が出てくるんだ」と相手の思考の癖やパターンをきちんとつかまなければ、その人とはうまく取引することができません。

部下を指導するとき、指導の上手な上司は、その部下にとって参考になるロールモデルを示して、「あの人の発想をよく見ておくんだぞ」などと指示しますし、上司とうまくやる部下は相手をよく観察して、「この上司はこういう局面でカッとするタイプだな」などと上司の思考パターンを理解していきます。

このように個々の人間を理解してうまく仕事をしていくうえでも、人間の思考のパターンの把握は必要不可欠なのです。

(出口治明『還暦からの底力——歴史・人・旅に学ぶ生き方』、講談社、2020年、pp.150-156より、一部改変)

注 アナロジー：類推，類比

問 1 下線部(1)~(4)を漢字で表しなさい。

問 2 空欄[ ア ]にあてはまる接続詞を、下の  の語群から1つ選びなさい。

問 3 作者が教養を重視する理由について、150字以内で述べなさい。

問 4 下線部(A)を踏まえ、あなたの「知識」と「考える力」に対する考えについて、700字以内で述べなさい。